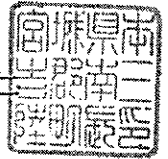


南三建 第 378 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

宮城県南三陸町長 佐 藤 仁



今後の道路行政に対する意見・提言について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で通知ありましたこのことについては、別紙のとおり提出します。

（連絡先）

南三陸町役場
〒986-0792 宮城県南三陸町志津川字塩入77番地
TEL ; 0226-46-2600（代）
建設課（歌津総合支所内）三浦、後藤
〒986-0453 宮城県南三陸町歌津字伊里前91番地
TEL ; 0226-36-3922（直）
FAX ; 0226-36-2550

今後の道路行政についての意見・提言

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ◇ 道路網整備のあり方、考え方について、近年、特に道路特定財源等の問題もあり、全ての道路整備事業が「無駄、あるいは不要」と評される傾向にある。こうした風潮は、都市部の声をもって国民的な世論として扱う政局（政治的背景）及び報道等に大きく問題もあるが、他方こうした動向に、その必要性等をより明確に論理的に説明し得ない当局側の受身的な姿勢に苛立ちと同時に、内部にも一部同様の考えがあるのでは、という懸念すら感じる。

今般の「今後の道路整備（中期）計画」の策定に当たっては、見直すべき点はしっかり見直し、一定の評価基準に加え各地域の実態を的確に把握し「真に必要な道路は着実に整備する」という強い信念をもって取り組んでいただきたいと期待しており、計画期間中における重点的、効率的な事業の推進をお願いしたい。

記

（事業評価に防災や医療・産業振興への地域支援効果等、各地域の特性を加味！）

- 道路は、社会資本としてあらゆる分野で基礎的役割を果たしております。国の根幹をなす「幹線道路ネットワーク」の構築は、百年の大計であり、計画的に整備して後世に引き継いでいくことが責務であり、揺るぎない信念でもって積極的に整備を推進してほしい。

地方には、高規格幹線道路をはじめ、国・県等の幹線道路や日常の生活道路にいたるまで、まだまだ未整備箇所が多く、都市部との地域格差を強く感じている。一定の地域格差が生じるのは止む得ないことであるが、現在のような整備手法〔便益重視〕では、益々、格差が拡大する。これまでの走行時間短縮便益、走行経費便益、交通事故減少便益の３つの社会的便益による評価では、交通量で評価が決まる。全ての道路整備を同じ評価方法だけで判断してよいのか。今後の道路計画においては、防災や医療・産業振興への地域支援効果等、各地域の特性も加える等、交通量の少ない地方にあっても、「真に必要な道路」が整備できるよう評価方法を見直すべきである。

（市町村の橋梁の老朽・耐震化対策に国の支援策を！）

- 市町村の橋梁の老朽・耐震化対策は、一連の道路である性質上、その対策は本来、国・県・市町村とも一体的・一定の期間で整備することで通行の安全確保が図られる。しかし、現下の厳しい市町村財政状況では、対策を実施する余裕がなく遅れるのは必至である。又、各自治体の事情から自治体間で取り組みに格差が生じる。市町村の橋梁の老朽・耐震化対策の推進には、市町村の地元負担軽減等、国の支援策が必要である。

（真に必要な道路整備の推進には、十分な道路財源の確保が不可欠！）

- 道路特定財源諸税の扱いについては、地方に偏在する納税者の理解が得られるよう、又、市町村の道路財源には過去の道路整備の起債償還も含まれることを十分考慮し、前年度レベルを低下させることがないように措置をするよう要望する。

（地方道路整備臨時交付金は、道路整備に有効な制度、より充実を！）

- 地方道路整備臨時交付金については、市町村道路の整備にとって誠に有効な制度であることや、整備中の道路もあることから同制度の拡充を強く要望する。

今後の道路行政についての意見・提言

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

当地域は、宮城県沿岸北部に位置し、主要幹線道としては国道４５号一本であり、県都から車で２時間を要する。

主要幹線道路においては、ひとたび災害あるいは交通事故などが発生すると隣接他町村への通行が遮断され孤立してしまう状況にある。又、産業振興の面からも高速交通網の未整備により、他市町村と比べ時間的あるいは、コスト等各方面においても不利であり、付加価値を高めることへの大きな阻害要因となっている。

(唯一の基幹道路国道４５号 津波等災害時、機能麻痺！)

Ｓ３５年チリ地震津波の被災では、当町市街地中心部を通過する国道４５号の道路機能が完全に麻痺した。当時、救急救援活動にも支障をきたした苦い過去がある。

(国道４５号…交通混雑・渋滞解消！産業団体も強く望む！)

地域の各種イベント開催時には、水尻(橋)交差点付近は、右折レーンがない変形交差点のため、朝夕の通勤時間帯やサマシーズン・行楽シーズンや産業団体等が開催する各種イベントのたび、渋滞が発生している。

(急カーブの改良や歩道の整備が必要！)

また、国道４５号当町区間は、地形的要素もあり急カーブが多く、又、集落内での歩道未整備区間もあり、事故が多く住民の安全に不安がある。

県道や町道・都市計画道路等幹線道路においても、未整備箇所がまだ多く、市街地の円滑な交通の阻害要因となっている。

○課題

(１) 県都及び主要都市を結ぶ高速交通体系の早急な整備

①住民の安全安心なまちづくりの点から

イ．当地域に二次、三次高次医療施設がなく住民の救急、救命活動に不可欠である。

ロ．近年ほぼ確実に（９９％）に発生するといわれる宮城県沖地震への対応する、各種防災活動上の拠点施設として整備を急ぐ必要がある。

(２) 地域産業振興の面から

イ．地域の豊富な資源を生かしたい都市住民との交流による地域振興

ロ．基幹産業たる水産業はじめ各産業の主要市場への流通面において、時間的並びにコスト的に効率化が図られ、より付加価値が高められる。

(３) (国道４５号 現道整備)

産業・経済・観光等振興上や地域に密着した生活道路として、又、将来も、三陸縦貫自動車道のアクセスルートとして機能。今後もより安全で円滑な交通機能の確保が重要な課題である。

○交差点改良整備、

○歩道・急カーブの改良等の整備

○橋の老朽・耐震対策…（特に、迂回路のない水尻橋）

整備にあたっては、県・市・町・村の道路整備財源の確保が最大の課題である。

今後の道路行政についての意見・提言

②-2 地域の将来像

(町の基本理念と町の将来像)

「自然との共生」、「自治意識の高揚」、「ブランド化の推進」を本町の基本理念として、「自然・人・なりわいが紡ぐ、安らぎと賑わいのあるまち」南三陸町を町の将来像として目指しており、まちづくりにおいては、「連携」、「循環」、「自治」を意識した地域運営を行うこととし、将来像を実現するため、「安全・安心」、「産業振興」、「環境と調和」等、7つの柱(政策)を定め、まちの将来像の実現を目指しております。

第一の柱として「安全で安心のまちづくり」を進めております。近い将来高い確率で宮城県沖地震発生が予想されていることから、災害に備えた体制づくり、各種の防災対策施設の充実強化や防災組織づくりなど進めております。過去、津波等災害で町が孤立した苦い経験もあり、今後、国道45号の「代替道路の確保」が大きな課題であります。

第二に「集いと賑わいのあるまちづくり」を進めております。本町の経済は第一次産業等、総じて厳しい状況にあり、又、今後人口の減少や少子高齢社会進行の中で、地域経済の活性化が非常に重要な課題となっております。本町の豊かな地域資源を活用した安全で高品質な農林水産物をブランド化する取り組みの推進や、魅力ある山海の自然環境を背景としたグリーンツーリズムやブルーツーリズム等の交流型産業と観光を連携させ、交流人口の拡大に向けた施策を積極的に展開しております。しかし、高速道路ネットワークからの隔たりが、まちづくりの大きな阻害要因となっており、また、町の情報・発信等交流の核(場)となる拠点づくり(「道の駅」等)も今後の課題です。

他、各種まちづくり施策の推進にあたっても、道路整備の推進が重要な要素であり、特に三陸縦貫自動車道の整備による高速交通ネットワーク化の位置づけが不可欠であり、また、地域幹線道路等の整備も併せて行い有機的利用を図ることが重要であります。

三陸縦貫自動車道等の道路整備は、近い将来、地域の課題である「救急救命活動・高次医療」や災害時の「代替道路」機能の確保により、安全・安心が図られ、また、豊かな地域資源を活用した観光等交流人口の拡大や産業経済の振興活性化により、南三陸町の将来像である「自然・人・なりわいが紡ぐ、安らぎと賑わいのあるまち」が活力に満ちて、そして持続できることを展望します。

今後の道路行政についての意見・提言

③ 道路施策の重点事項〔代表事例, 期待する評価等〕

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	◇ 三陸縦貫自動車道の整備 ① 登米志津川道路の早期完成 ② 志津川以北基本計画区間の早期事業化	◇ (産業経済・観光等地域振興等を支援する) ① 豊富な魚介類、農産物等の輸送時間の短縮や定時性の確保により、安全により新鮮に都市部に安定供給できる。又、観光誘客等による交流人口の拡大等観光や産業振興への影響は大きく地域活性化に寄与する。 (災害等緊急時の代替道路機能が確保される) ② 近い将来発生が予想されている「宮城県沖地震」による津波等災害発生時、三陸縦貫自動車道は、国道 45 号の代替道路として機能する。住民の安全・安心に対する効果大きい。 ◇ (救急救命活動・高次医療利用における効果大) ③ 当地域の医療事情から、救急医療、高次医療機関への搬送が不可欠であり、三陸縦貫自動車道の利用による効果は大きい。現時点でも石巻日赤病院への救急患者の搬送等その効果が顕著に現れており、整備完了後は、より一層の効果が期待できる。	特記事項； 本町は、明治 29 年、昭和 8 年、昭和 35 年(チリ地震津波)等の津波災害を被っている。特に、チリ地震津波では、甚大な被害を受け、最大の被災地となった。道路が寸断、町が孤立し、自衛隊の救援活動や全国から多くの支援を受けた。町の復興には、長い歳月と多額の費用を要した。(被害額は、当時の町予算規模の 50 倍)
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	国道 45 号の交通安全及び危機管理の対策の推進	① 改良等の整備により、交通の規制が緩和され、円滑な交通や事故防止が図れ、歩行者の安全も確保される。 ② 三陸縦貫自動車道「桃生・津山 I・C 及び志津川 I・C(仮称)」のアクセス道路としても重要な役割を果たす。 ③ JR 志津川駅と主要観光施設・景勝地を結ぶ唯一の連絡道として、観光等産業振興にも貢献する。	

地域内幹線道路の整備 (地域に密着し生活道路)	一般県道(志津川登米線他)や都市計画道路・町道の整備	○整備により、市街地・周辺地域における適切な幹線道路ネットワークが形成され、市街地の交通混雑が解消され、円滑な交通の流れが確保される。 市街地の円滑な交通により、三陸縦貫自動車道へのアクセスが充実し、観光・交流や産業振興の支援につながる。また、混雑の解消により、住民生活の利便性と安全が確保される。	
地域の交流・情報・発信 基地の整備	「道の駅」等	(交流・情報の発信・災害時の拠点基地) ○本町の恵まれた自然や豊富な水産物等の地場産品を広く紹介する交流の場・情報発信の拠点として、三陸縦貫自動車道や国道45号等の利用者を介して、全国に情報等を発信し観光等交流人口の拡大が図られ、地域活性化につながる。 又、災害等有事における拠点として機能し、地域住民や道路利用者の安全確保を図ることができる。	